

2023年度

環境経営レポート

対象期間：2023年7月～2024年6月



株式会社 安田精機製作所

発行日：2024年 8月 20日

改定日：2024年 9月 4日



私たちは、地域と地球の
環境に配慮した事業者です



エコアクション21[®]

認証番号 0006049

事業の概要

会社名

株式会社安田精機製作所
代表取締役 安田 陽太
YASUDA SEIKI SEISAKUSHO, LTD

事業内容

JIS、ASTM、ISO等の規格に準拠した材料試験機 及び製品品質向上、新製品開発研究用試験器の設計、製造、販売、保守。

認証登録の対象範囲

【本社・西宮北工場、東京営業所】
材料試験機等の設計・製造・販売・保守

所在地

【本社・西宮北工場】
〒651-1412 兵庫県西宮市山口町下山口121-1
Tel 078-907-1511 Fax 078-907-1522
【東京営業所】
〒173-0004 東京都板橋区板橋3-9-14-101
Tel 03-3579-8995 Fax 03-3579-8997

事業規模

社員数	98名
(本社・西宮北工場	91名
東京営業所	4名
東京サービス	3名)
社屋床面積	本社・西宮北工場 1,830m ²
	東京営業所 43m ²
	東京サービス 59.04m ²
総敷地面積	本社・西宮北工場 1,700m ²
	東京営業所 43m ²
	東京サービス 59.04m ²

環境保全関係の 担当者連絡先

環境管理責任者	安田 陽太
担当者	藤居 幸恵
連絡先	Tel 078-907-1511 Fax 078-907-1522

事業の概要

その他

ISO9001 認証取得 (2000年8月)

安田精機製作所では、品質を試験データで保証し、品質管理における諸問題を解決する試験機作りに地道な努力を重ねています。
その多くは世界標準規格に適合し、ボーダーレス時代に必須の条件を満たしています。
御社の品質管理・研究開発に、「YASUDA SEIKI」の独創的な物性試験機をお役立てください。



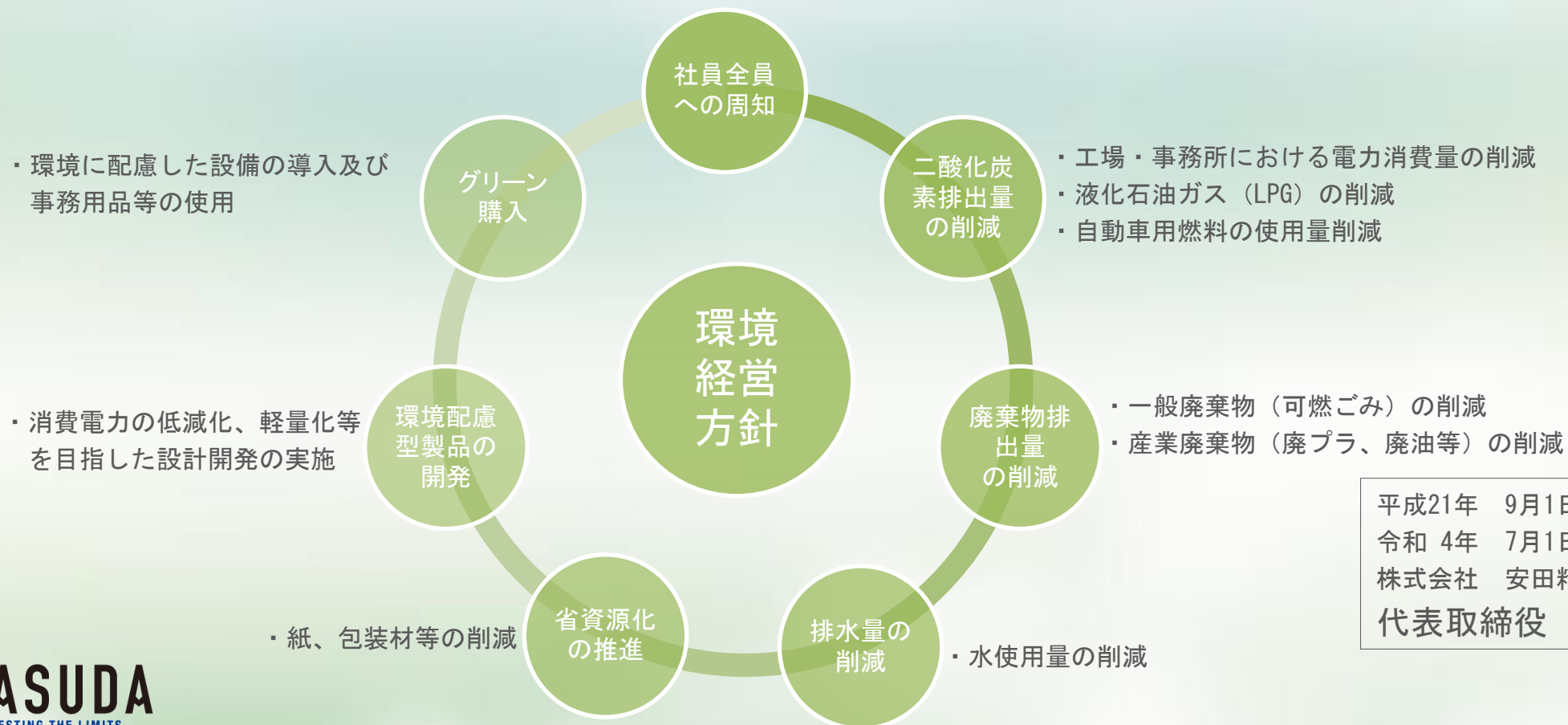
環境経営方針

環境理念

当社は、地球環境問題を事業活動する上での重要課題の一つと認識し、環境への取組と環境負荷の継続的な改善に努め、持続的発展が可能な社会の構築に貢献します。

活動方針

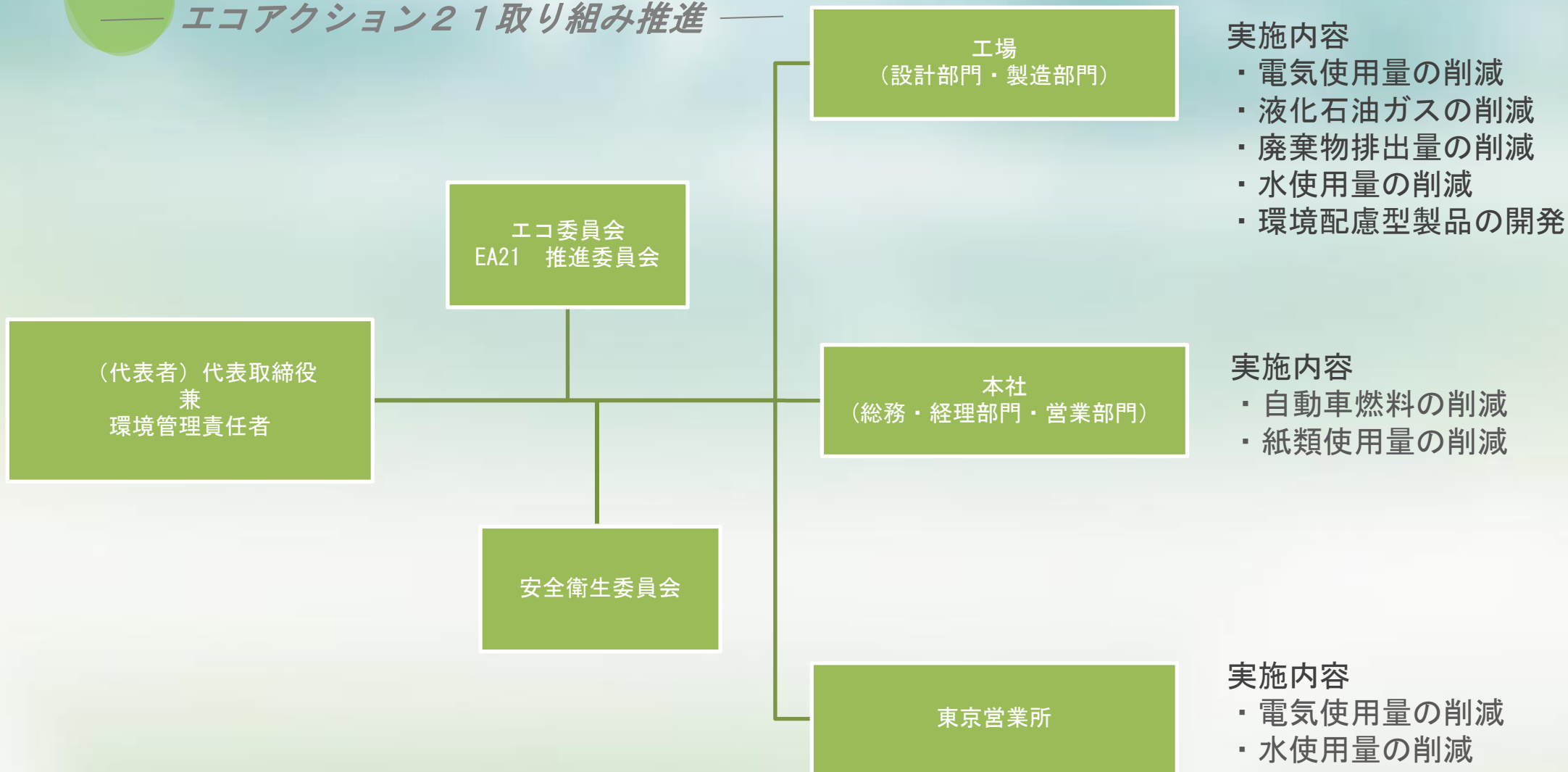
1. 環境関連法規および当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
2. 環境への取り組みを環境経営レポートとして取りまとめ公表します。



平成21年 9月1日 制定
令和 4年 7月1日 改訂
株式会社 安田精機製作所
代表取締役 安田 陽太

環境目標の責任体制・実施体制

—— エコアクション21取り組み推進 ——



環境目標の責任体制・実施体制

——責任と権限——



1. 環境管理責任者の任命
2. 環境方針の制定
3. 経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備
4. 環境経営システムの定期的見直しの実施
5. 社内情報の外部公開可否の決定



1. 環境経営システムの確立、実施及び維持するための処置
2. 社長に対し、環境経営システムの実施報告
3. 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施責任者
4. 全員参画によるEA21の運営改善を推進
5. EA21関連文書の作成、改廃、保管、伝達の業務を推進



1. 環境目標の達成責任
2. 環境活動計画の立案及び推進



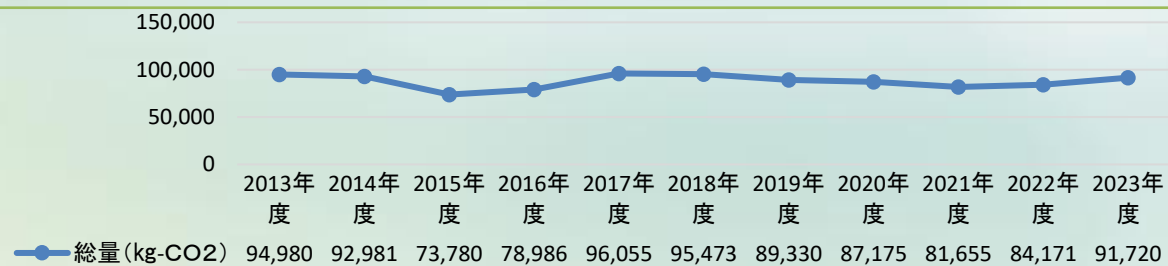
1. 環境活動計画の実行
2. 環境活動計画の推進状況の報告

過去・本年度の実績

当社の過去の実績は以下の通りです。



【二酸化炭素排出量※1】

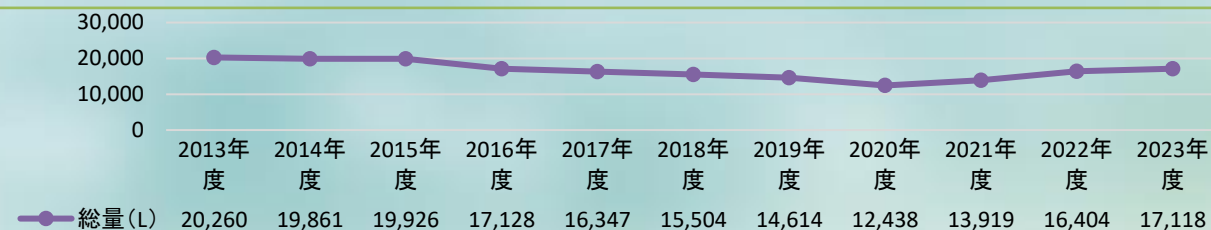


【電気使用量】

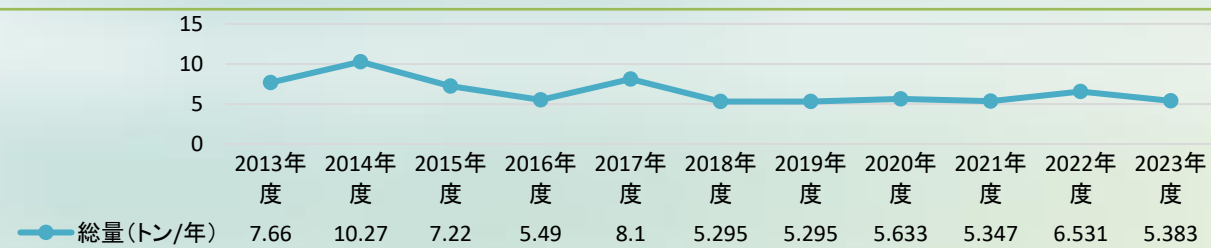


※1 0.318kg-CO₂/kWh (関西電力株式会社)
 0.441kg-CO₂/kWh (東京電力株式会社)
 2019年調整後排出係数(2021年1月公表)

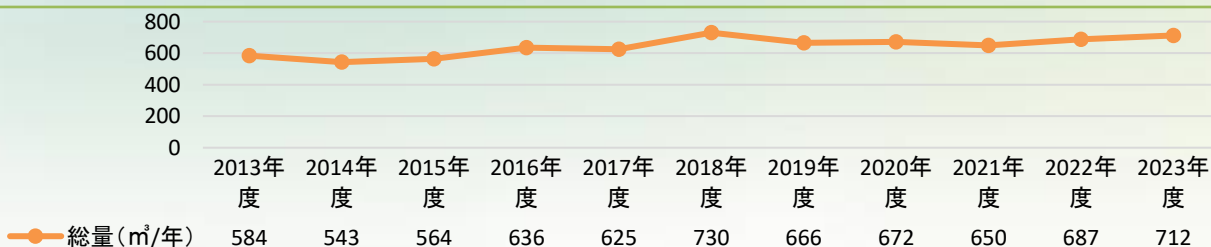
【自動車用燃料】



【廃棄物排出量】



【水使用量】



【紙類使用量】



YASUDA
 — TESTING THE LIMITS —

2023年度 1年間の目標と運用の結果・評価

環境目標と結果

「2019年度目標から毎年1%削減する」という中期目標を継続しておりましたが、売上増・社員増の現状を踏まえ、2023年度より目標値の設定を【前年度売上高原単位＞本年度売上高原単位：基準B】に修正致しました。

しかしながら、前年までの目標を考慮し、【前年度実績値＞本年度実績値：基準A】の両方の観点で目標値を設定致しました。

※前年同様、社員数増加の影響があり、水使用量が実績値では増加してしまいましたが、売上高原単位では▲4.49と目標値以内で収めることができました。

しかしながら、社員数が増加しているにも関わらず、紙の使用量については、前年実績よりも減少しており、DX化が少しずつ数値に反映されているのではないかと考えています。

2024年度については、2023年度同様、【基準A】・【基準B】の両観点から注視しつつ、2025年度に向けて目標設定の見直し等も行っていきたいと考えております。

2023年度 (2023年7月～2024年6月) の結果 (目標及び達成)

		【基準A】			【基準B】		
		1年間の目標 (2022年度実績)	1年間の実績	【基準A】結果	2022年度売上高原単位	2023年度売上高原単位	【基準B】結果
二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂	85,267	91,692 ※1	107.5%	0.742	0.712	▲0.03
廃棄物発生量	トン	8.30	5.383 ※2	64.8%	0.722 ※3	0.418 ※3	▲0.30
水使用量	m ³	687	712	103.6%	59.787 ※4	55.293 ※4	▲4.49
紙類使用量	トン	10.93	9.369	85.7%	0.951 ※3	0.728 ※3	▲0.22
省エネ製品開発	件	1	1	100.0%	—	—	—

※1 内訳 (電力: 56.7%、ガソリン: 43.3%)

※2 内訳 (一般廃棄物: 2.613トン、産業廃棄物: 木くず・廃プラスチック・金属くず・廃油 2.77トン)

※3 t/万円

※4 m³/万円

※ 化学物質の使用はありません。

2023年度 1年間の目標と運用の結果・評価

—— 環境経営計画と結果 ——

1) 二酸化炭素排出量（省エネに関する取り組み）



- ① 室内温度、夏は27℃、冬は23℃
- ② 昼休み等不使用時の照明消灯実施
- ③ 社用車の効率的な運転管理の推進（日報の分析）
- ④ エコドライブ10の推進
- ⑤ 営業車のハイブリッドカーへの変更推進

取り組みにおける評価

・前年度より行っている冬期におけるエアコン使用デマンドの上限目標を83kWに設定し、2023年12月～2024年2月をエアコン使用制限強化月間として電力使用量を監視し削減に取り組みましたが、前年実績より実績値は増加してしまいました。しかしながら、売上高原単位では、▲0.03と前年度より減少し目標値をクリアできました。
社員数増加の影響が大きく実績値に反映していますが、今後とも実績値に注視し、削減案を全社員で共有し、実績値の維持・減少を図りたいと思います。



2) 廃棄物排出量（リサイクル取組）



- ① 一般廃棄物の分別徹底
- ② リサイクル活動の継続による、産業廃棄物の排出量削減

取り組みにおける評価

・産業廃棄物の量を削減
売上高が伸びているにも関わらず、図面の見直し・改善活動を行い、不良品が減少した事により、廃棄物も減少しました。
見直し活動等の成果が実績値として反映されていると思います。
また、分別の徹底を行うことにより、前年実績値の削減に貢献できていると思います。
今後とも産業廃棄物に関しては、今以上の分別・改善活動を進め、実績値の減少、リサイクルに対する数値も上げていきたいと思っています。



2023年度 1年間の目標と運用の結果・評価

評価

3) 水使用量（節水の取組）



- ①節水活動の周知に努める
- ②トイレ排水の削減

取り組みにおける評価

- ・ 全社では実績値が増加していますが、売上高原単位では▲4.49と目標を達成しております。
東京（営）単体では水使用量が増えており、増員等における主となる原因はなく、実績値・売上高原単位共に、目標未達となりました。
東京（営）にて節水活動の周知を徹底し、今後、改善を進めたいと思います。

4) 紙類使用量



- ①コピー用紙の裏面使用の推進
- ②梱包材の簡易梱包化の検討中

取り組みにおける評価

- ・ 社内DX化の推進活動により、実績値でも減少させることができました。
今後更なるDX化に向けて社内で検討・実施を行っていききたいと思います。

Good!



Good!



5) 環境配慮型製品への改良、 環境配慮型製品新規開発

- ① 消費電力削減
- ② 軽量化の推進
- ③ 顧客の工数削減に貢献

取り組みにおける評価

- ・ 作業者の工数大幅削減に貢献するものとしてNo. 258-D 衝撃試験機（デジタル式・タッチパネル仕様）のタッチパネルソフトウェアを再設計し、製品の操作性及び作業性が向上しました。



Good!



6) その他の取り組み事項

- ① エコアクション21目標達成状況の掲示（月1回更新）
- ② 節水・節電ステッカー貼り付けなどのエコ推進活動



YASUDA
— TESTING THE LIMITS —

2024年度 以降の目標・計画内容

目標

2023年度に目標値の再設定を行い、数値のモニタリングを行う事ができましたが、2024年度は、東京（営）の移転予定があり、目標値設定については、再検討が必要となる可能性があります。

2024年度は、今年度達成している数値に対しても注視し、新しい対策へのアイデアを社内全体で考える機会を設定し、異なる目線での対策を講じたいと考えております。

その為に、エコ委員会主導でミーティングを行い、エコアクションに対する全社員の意識向上を図ると共に、削減対策案を募り、さらなる削減に努めたいと思います。

また、その一環としまして、エコアクションの重要性・理解・環境への影響を考える機会を、ポスター掲示等により周知し、全社員の意識向上を図りたいとも考えております。

DX化につきましては、部署ごとに検討・見直しを依頼し、システム情報室にて対応可能か再検討し、更なる導入推進を図って参りたいと考えております。

2023年度にて、2種類（A基準・B基準）の目標を立てており、2024年度以降も同様の目標を設定し、B基準については、2024年度以降も数値をモニタリングし、必要に応じて目標設定の基準を検討したいと思っております。

エコアクションに対する日々の活動を2023年度以上に活発に行い、2024年度についても目標を全項目にて達成できるよう努力いたします。

2024年度の目標値

年間総量		2023年度実績	2023年度売上高原単位	2024年度目標【A基準】	2024年度目標【B基準】
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	91.692	0.712	9.692以下	-0.03以下
廃棄物発生量	トン	5.383	0.418	5.383以下	-0.30以下
水使用量	m ³	712	55.293	712以下	-4.49以下
紙類使用量	トン	9.369	0.728	9.369以下	-0.22以下
環境配慮型製品への改良、環境配慮型製品新規開発	件	1	-	1	-

※目標【A基準】 = 2023年度実績 > 2024年度実績

※目標【B基準】 = 2023年度売上高原単位 > 2024年度売上高原単位

※【B基準】の目標数値は、2023年度の各項目の判定数値

達成するための取り組み

1) 二酸化炭素排出量（省エネに関する取組）

- ① 室内温度、夏は27℃、冬は23℃
- ② 昼休み等不使用時の照明消灯実施
- ③ 社用車の効率的な運転管理の推進（日報の分析）
- ④ エコドライブ10の推進
- ⑤ 営業車のハイブリッドカーへの変更推進
- ⑥ タイヤの空気圧チェック
- ⑦ スタッドレスタイヤからの履き替え時期検討

2) 廃棄物排出量（リサイクル取組）

- ① 一般廃棄物の分別徹底
- ② リサイクル活動の継続による、産業廃棄物の排出量削減
- ③ 不良品減少に対する見直し活動

3) 水使用量（節水の取組）

- ① 節水活動の周知に努める
- ② 水量の調整

4) 紙類使用量

- ① 裏紙使用の推進
- ② 図面の出力方法の見直し
- ③ D X 化の推進活動

5) 環境配慮製品の開発

- ① 消費電力削減
- ② 軽量化の推進
- ③ 顧客の工数削減に貢献

6) その他の取り組み次項

- ① エコアクション21目標達成進捗状況の掲示（月1回更新）
- ② 節水・節電ステッカー貼り付けなどのエコ推進活動
- ③ ポスター掲示等による周知活動

環境関連法規への遵守状況の確認及び違反、訴訟等の有無

適用となる主な環境関連法規

法律名、条例名	遵守すべき要求事項	遵守・評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の適正処理委託、マニフェスト管理、保管	遵守
自動車NOx・PM法	社用車の対応	遵守
消防法	電気、ガスの使用 危険物指定数量の0.2倍未満で管理する	遵守
下山口自治会との協定書	有害排水、騒音施設、大気施設、周辺駐車なし	遵守
フロン排出抑制法	業務用エアコン等廃棄時適正処理 業務用エアコン(7.5kW以下)の3ヶ月に1回以上の簡易点検、記録の保管(対象機器廃棄後3年間) 業務用エアコン(7.5kW以上50kW以下)の3年ごとの業者定期点検	遵守

違反、訴訟等

環境関連法規への違反や訴訟、関係当局より違反等の指摘はありません。
消防署の立入りを受け、特に指摘はありません。
なお、周辺住民からの苦情はありません。

評価の結果

—— 代表者による全体評価と見直し・指示 ——

2023年度は長期化するウクライナ問題・米国のリセッション懸念等、世界情勢として不安定な状況は続きましたが、引き続き変化をチャンスと捉え、新しいことに取り組みました。環境負荷低減についても、DX化をさらに推進することで無駄な作業等を省き効率的な会社運営を進めることで、目標達成に繋がっていくと考えます。2024年度も同様にやるべきことに集中し、年輪のごとく成長していく会社を目指して活動してまいります。なお、環境方針、目標・計画、実施体制については現状を継続して運用します。

2024年8月20日 安田 陽太

